

introduction

超高齢社会の到来に伴い大腿骨近位部(大腿骨頸部・転子部)骨折は増加の一途をたどり、その数は2030年に27万人、2040年には31万人に達すると推計されています。その骨折の主因である骨粗鬆症は、2015年の推定予測患者数は1,280万とされていますが、骨折予防のための治療に関しては、残念ながら約8割の方が未治療となっています。また、骨折の既往のある方は、一度も骨折のない方と比べ新たな骨折を起こすリスクが3~5倍とされ、大腿骨近位部骨折のリスクも2.5倍になるとされています。このように一度骨折した方は、次も骨折しやすくなり、放置するとドミノ倒しのように骨折が重なった場合、最後は死につながります。毎年10月20日を世界骨粗鬆症デーとして、国際骨粗鬆症財団が統一テーマを提唱し、骨粗鬆症による骨折をなくす取り組みをしています。2012年には、「Stop at One : Make Your First Break Your Last : 最初の骨折を最後の骨折にする」を提唱し、世界各地で再骨折予防の重要性を再認識する取り組みが行われています。

本号では、骨粗鬆症に起因する骨折のなかでも寝たきりに直結し、レジデントが一般病院で主治医や術者として治療にあたる機会の多い大腿骨近位部骨折に焦点をあて、テーマを「大腿骨近位部骨折治療のエキスパートを目指そう」としました。

現在、臨床の最前線で活躍されている指導医の先生方に、初心者から中級者に向けて、エキスパートになるために必要なポイント(基本的な重要事項、診断・分類では見逃さないポイント、治療では手術適応、術式選択、予後：歩行能力などや合併症予防のポイント)などを総論と各論(頸部骨折・転子部骨折)に分け、それぞれのテーマに沿って表やイラスト、画像を多用して執筆いただきましたので、読者にとり大変理解しやすいと思います。

各々の項を熟読することで、大腿骨近位部骨折の診療においてエキスパートを目指す読者の皆様にとって、本号が診療の一助となるものと考えていますが、誌面の制約上取り上げることのできなかった基本的なことは成書を見ていただくことでご容赦ください。

大腿骨近位部骨折の診療にあたるレジデントのみでなく、本骨折を紹介することの多い医師や治療にあたる療法士や看護師などメディカルスタッフを含めたすべての医療関係者にとって意義のある1冊になるものと考えています。

最後に、ご多忙のなか、本号にご執筆いただきました先生方に改めまして深謝するとともに、本号が大腿骨近位部骨折の診療の傍らに置かれ読者の皆様のお役に立つことを祈念し序文の挨拶と致します。

宮崎大学医学部整形外科
帖佐悦男